

# 紙類貿易情報講演会録

2019年2月13日(水)  
15:00-16:30  
紙/パルプ会館会議室にて  
組合/山浦記

日本紙類輸出組合・日本紙類輸入組合

参加者

47名

講師

株式会社ジェーオーピー

会長

早速 明生 様

有限会社古紙ジャーナル

編集長

本願 雅史 様



## 1. 中国における古紙事情と今後の影響

**1. 中国の製紙産業と古紙事情:** 中国国内の製紙工場は 1,620 箇所あり、生産能力は 1 億 5,100 万トン。2018 年度の生産は 1 億 570 万トンで 7 割の稼働率だった。中国国内の古紙回収量は 5,300 万トンで消費量の約 50%の回収率だが、古紙需要は 8,000 万トンあり不足している。古紙回収率は今後も伸びると思われるが、需要には追いついていない。

**2. 中国古紙輸入規制問題:** 中国 政府は環境規制に取り組むため 2017 年末から MIX 古紙の輸入禁止措置をとり、2020 年には古紙輸入をゼロにする方針を掲げている。輸入ライセンスの段階的な縮小や品質基準の厳格化に加えて 2018 年 8 月に米中貿易戦争の影響で米国品に 25%の関税がかけられたため輸入が減少した。2018 年度古紙輸入量は 1,700 万トンで、最高値を記録した 2012 年の 3,000 万トンから 43%減少している。2019 年の古紙輸入量は 1,000 万トンが限界とみられる。

**3. 今後の対策:** 古紙不足対策として古紙回収率の増加があげられる。大陸であり状況の近い米 国をモデルとして考えると、最大 65%程度で 1,500 万トンの回収量増が見込めるのではと考えている。他、古紙パルプ輸入を増やすこと、原紙の直接輸入、大規模メーカーについては海外への工場移転等が考えられる。

## 2. 中国の 2020 年問題と今後のアジアの古紙市場

**1. 2018 年の古紙市場:** 米中の貿易戦争の影響、中国の環境規制により様々な影響が出た。中国向け古紙価格は乱高下し、輸入ライセンスが小出しで発行されたことで世界の古紙市場が混乱し、中国の紙・板紙生産量は 1 億 300 万トンと前年から 7.5%減少し市場が縮小した。今後の貿易戦争の行方次第では年間 3~4%減少となり縮小傾向が続く見通しである。

**2. 中国の 2020 年問題:** 中国は 2020 年末をもって古紙を含む固形廃棄物の輸入をゼロにするため、HS コードによる品目の制限、輸入ライセンス交付の段階的な縮小、品質基準の厳格化や税関検査の強化を組み合わせる規制を行っている。古紙不足対策として品質を向上し歩留まりの改善、古紙回収量の増加、輸入パルプの増加、原紙輸入の増加が考えられる。また、中国国内の大手製紙会社は海外企業の工場買収や新工場の設立などを進めている。

**3. アジアの古紙需給:** 東南アジアで生産拠点の増設ラッシュがあり、将来的に年産 1,500 万トン前後の増設計画がある。しかし再生資源輸入規制強化の流れもありベトナム、タイ、マレーシア、台湾で実施されているほか、インド、インドネシアなどでも輸入規制が検討されている。

**4. まとめ:** 2020 年末の中国の古紙輸入ゼロはほぼ確実となり、規制による需要減で古紙がダブつくこととなる。中華系古紙輸出商社は淘汰再編の予兆があり、中国中心からアジアで多極化への動きがある。

## 質疑応答

**2020 年問題で発生した余剰古紙への対策について:** 輸出者としては、ベトナム、台湾など中国以外の諸国の代理店向けの輸出を安定化させていく方針。価格の下落もあって価格交渉もできると考えている。

**古紙不足もある中での 2018 年の中国国内生産について:** 白板紙の需給がダブっており需要が落ちたため、輸入規制以前からあった白板紙メーカーが工場を閉鎖する方針を固めていたこともあり生産を落としていた可能性がある。南部のメーカーが白板紙の生産は維持しており、その分については国内の古紙で賄うことができたのではないかと推測している。